

最終処分場湧出水、本当に安全処理か

政津クラブ 田中宣夫



質問 ↓ 横山地区のごみ最終処分場は、市が責任を持って管理すると六月議会で答弁しているが、地元の方々から「魚も住まない川になって不安だ」

との声を耳にしているが、処分場の湧出水は現在、稼動している施設で本当に安全に対処できているのか。

答弁 ↓ 現在の施設で適切に処理できている。現在、河川に放流している水は県の環境保全事業団で年二回、水質汚濁防止法などで定められているカドミウムやシアン化合物など十一項目の調査を実施しており、結果は基準以下となっており、良好な水質レベルになっている。雨水排水路の整備などで雨水排水と湧出水を分離しており、大雨時でも湧出水を処理できるようになってきている。

小学校給食のなし崩しのセンター化はやめよ

日本共産党津山市議員 美見みち子



質問 ↓ 第二センター化の話まで飛び出し、中学校給食の巻き添えで、小学校給食のセンター化まで進むとはおかしい。該当の七校の実名を公表されたが、小学校給食のなし崩しのセンター

化は行き過ぎだ。

答弁 ↓ 本年三月議会で、六千食の規模で当面一センター化とする旨を六月議会で小学校への供給も検討を進めたい旨を説明し、九月議会で小学校への供給を実施したい旨答弁してきた。巻き添え的、なし崩しの小学校のセンター化ではなく、施設の状態などを十分考慮して総合的に判断している。

質問 ↓ 議会説明はされたが、小学校給食センター化にこの話は論議されていない。中学校給食三千食のみのセンター化とすべきだ。

いじめ問題と新農業政策について

新風会 倉持照憲



質問 ↓ 市内の小中学校のいじめ認知件数は、小学校でのいじめ情報をどのように中学校に申し送りしているのか。

二十七件、二〇〇四年度二十三件、二〇〇五年度六件。市教委の独自調査ではいじめの件数は増加している。本年度から市独自の中学校ブロック小中連携支援事業を発足させた。

答弁 ↓ 米需給システムと市との関係は。環境対策における市の取り組みは。環対策に地域水田農業推進協議会の構成員であり、生産数量について適切な支援と誘導を行いたい。農業地域への総合支援として環境対策も、てこに集団的農業団体を対象に参加区域の確定、そして、認定申請をする。

教育問題とごみ処理について

新世紀の会 西野修平



質問 ↓ いじめ対策はどうか。遅れている子供の対策と分野別教育でやる気を出させる事が大事では。また、教員が多忙すぎる。校務員を常勤にしては。携帯電話は教育上問題が多いが、

学校への持ち込みを禁止すべきだ。新ごみ処理場の進捗状況は。生ごみ対策としてメタンガス化を導入しては。いく。「習熟度別編成」や興味関心に応じた「課題別編成」に取り組み学校が増え成果も上がっている。携帯電話は児童や保護者に使用やマナーの指導をする。校務員は更に充実する。ごみ処理場は多くの申し込みを期待している。生ごみはスパー等、大手でメタンガス化が研究され進んでいる。津山市も今後の課題として更に調査研究する。